S&P Dow Jones Indices

A Division of S&P Global

2026 年 10 月の米国株式市場の振り返り（2026 年 11 月配信）

「市場は熱狂を戒め、秩序を取り戻す」

市場概況

10 月の米国株式市場は下落しました。人工知能（AI）関連銘柄への投資の持続性に対する懸念が、テクノロジー関連の大型株の重荷となりました。S&P 500 指数は月間で 0.9%下落し、年初来の上昇率は 11.8%に縮小しました。主要株価指数の下落幅は小幅にとどまりましたが、その背後では相場のけん引役が大きく入れ替わりました。それまで市場を主導してきた超大型株やグロース株が軟調となる一方、小型株やディフェンシブ色の強いセクターは上昇しました。

10 月は、主要株価指数がマイナスのリターンとなったものの、大型株の幅広い銘柄に上昇が広がり、相場の裾野が拡大しました。S&P 500 均等加重指数は 10 月に 5.0%上昇し、時価総額加重ベースの S&P 500 指数を約 6 パーセントポイント上回りました。この月間アウトパフォーム幅は 2009 年 4 月以来最大となりました。一方、S&P 500 トップ 50 は 3.3%下落しました。

こうした物色対象のシフトは、中小型株にも波及しました。S&P 中型株 400 指数は 1.9%上昇し、S&P 小型株 600 指数は 3.2%上昇しました。小型株の年初来リターンは 17.7%と、時価総額別の主要株式セグメントの中で引き続き最も高く、中型株が 12.0%でこれに続きました。いずれも同期間の S&P 500 指数をアウトパフォームしました。

セクター別・業種別動向

超大型グロース株から他の銘柄への幅広い資金シフトが進む中、9 月には情報技術セクターが好調だったものの、10 月にはセクター別のパフォーマンスの優劣が逆転しました。アルファベットの株価は期待外れの第 3 四半期決算を受けて下落しました。また、メタの借入拡大や AI インフラ投資がキャッシュフローに及ぼす影響への懸念も重荷となり、コミュニケーション・サービスセクターは 15.1%下落しました。同様に、ハイパースケーラー（大規模クラウドサービス事業者）の収益性や巨額の AI インフラ投資の持続可能性に対する懸念が再燃したことから、情報技術セクターも 6.8%下落しました。下落したのはこの 2 セクターのみでした。

一方、エネルギーセクターは 14.0%上昇し、S&P 500 指数の構成セクターの中で最も高い上昇率を記録しました。これにより、年初来の上昇率は 59.9%に拡大しました。また、生活必需品セクターは 11.6%、公益事業セクターは 10.2%上昇しました。

こうしたセクター別の動向には、上昇銘柄の裾野の広がりに加え、AI 関連銘柄への投資、中東紛争、インフレ、中央銀行の金融政策の先行きを巡る不透明感を背景とした、投資資金の大幅なシフトが反映されました。特に、10 月は 9 月と正反対の展開となりました。9 月に上昇した唯一の 2 セクターであった情報技術とコミュニケーション・サービスは、10 月には下落した唯一の 2 セクターとなった一方、9 月に下落したすべてのセクターが 10 月には反発しました。

ファクター

市場ではグロース志向やリスクの高いファクター指数から他の指数への資金シフトが進み、ディフェンシブ、インカム重視、バリューの各ファクターが好調なパフォーマンスを示しました。配当貴族は 9.4%、低ボラティリティは 8.9%、バリューは 4.9%、GARP は 3.2%上昇しました。一方、モメンタムは 10.0%、ピュア・グロースは 9.1%、ハイベータは 8.8%、グロースは 5.4%下落しました。

ファクター指数間のパフォーマンス格差は 9 月から拡大し、グロース系ファクターとディフェンシブ系ファクターの優劣が一段と鮮明になりました。

ボラティリティと銘柄間格差

決算発表シーズンを控え、ボラティリティと銘柄間のリターン格差が拡大しました。VIX 指数は前月末比 3.08 ポイント上昇して 19.42 となり、10 月 30 日には日中の高値である 23.93 を記録しました。また、Cboe S&P 500 構成銘柄ボラティリティ指数（VIXEQ）は 2.47 ポイント上昇して 42.3 となり、個別銘柄レベルで予想変動率が高まっていることを示しました。

実現ディスパージョンとインプライド・ディスパージョンはいずれも上昇しました。S&P 500 30 日実現ディスパージョン指数は 13.72 ポイント上昇して 45.24 となり、Cboe S&P 500 ディスパージョン指数（DSPX®）は 1.18 ポイント上昇して 37.43 で 10 月を終えました。S&P 500 指数の暦月ベースのディスパージョンは 44%に達し、過去の観測値の 95 パーセンタイルを上回りました。一方、銘柄間の相関は低水準にとどまりました。こうした状況は、個別銘柄間のパフォーマンス格差が拡大し、主要株価指数の小幅な動きの背後で物色対象の大幅なシフトが進む市場環境を反映したものでした。

関連リンク:

- U.S. Dashboard October 2026
- U.S. Sector Dashboard October 2026
- S&P 500 Factor Dashboard October 2026
- Dispersion, Volatility & Correlation Dashboard October 2026
- Daily Market Insights

本コンテンツは、人工知能（AI）ツールの支援を受けて作成された可能性があります。AIツールは提案や洞察を提供する場合がありますが、最終的なコンテンツは、S&P Dow Jones Indicesの人間の担当者によって作成、確認、編集、承認されています。